

AYA 世代がん患者とその親に対する看護師の関わり方に関する文献検討

○三宅 麻那佳（川崎医科大学附属病院），本多 美希（川崎医科大学総合医療センター）

堀 理江（関西福祉大学看護学部）

I. はじめに

Adolescent and Young Adult（思春期・若年成人：以下「AYA」）世代は一般的に 15～39 歳とされている。がんを持った AYA 世代患者に対する看護師の課題として AYA 世代の特性に応じた心理社会的支援や患者を主体とした患者教育、自己管理の支援が挙げられている。治療中の AYA 世代がん患者の悩みは、将来のこと、学業に関すること、不妊治療や生殖機能に関することがあり、患者の親にも大きな影響を及ぼす。AYA 世代がん患者とその親に対する看護師の関わり方について文献検討を基に明らかにすることを本研究の目的とした。

II. 研究方法

1. データ収集方法：医学中央雑誌 Web 版を使用し、「AYA 世代」「がん」「看護」「若年成人」「思春期」「青年期」「若年性がん」「若年がん」「家族」の用語を掛け合わせ、重複したものと会議録と文献検討を除き、原著論文に限定し、64 文献を抽出した。そのうち、AYA 世代がん患者、親に対する看護師の関わり方が記述されている文献 12 件を対象とした。

2. データ分析方法：AYA 世代がん患者やその親に対する看護師の関わり方に関する記述を抽出し、類似性に基づいてサブカテゴリーに分類し、さらに抽象度をあげてカテゴリー化した。

III. 結果

対象文献は全て質的研究で、4 カテゴリーが抽出された。

1. 【AYA 世代特有の関わりをする】：＜思春期青年期以降の発達課題を意識する＞＜妊孕性についての意思決定支援をする＞など 5 サブカテゴリーで構成され、アイデンティティが確立され、他者との親密な関係性を築いていく時期であることを考慮しながら関わること、また、まだまだ続くはずだった患者の人生に思いを馳せることを表している。

2. 【患者と家族に寄り添った関わりをする】：＜家族が向き合うために患者と家族員の思いを把握する＞＜家族の状況をアセスメントし、感情表出を促す＞など 4 サブカテゴリーで構成され、患者や家族の気持ちのずれをアセスメントしながら関わることで、現状を受けとめるため支援することを表している。

3. 【具体的な支援をする】：＜院内学級の教員や理学療法士・医師等のチームで関わる＞＜修学などの継続支援をする＞など 4 サブカテゴリーで構成され、治療中から患者自身のライフイベントを乗り越える力を得るために、多職種間で情報共有を行いながら関わること、また、家族介入のタイミングを見極める支援を行うことを表している。

4. 【患者を尊重する】：＜患者の思いを引き出し、希望に沿う＞＜ありのままを受け止める＞など 5 サブカテゴリーで構成され、患者を特別視せず関わること、また、本人の意向を尊重し、考えや思いを語ることができる場や時間を設ける支援を行うことを表している。

IV. 考察

AYA 世代特有の修学や妊孕性への関わりがあったこと、家族も含めて支援対象としていたことが AYA 世代がん患者への支援の特徴として明らかになった。そして、その基盤には、患者を尊重する関わりがあった。普段から何気ない会話を通して話しやすい環境を作ること、患者の一人の時間を尊重しつつも患者が居てほしいと思う時には側にいる存在になることを意識していた。